

令和7年度すくわくプログラム活動報告

江戸川区 小松川第二 保育園



テーマ「 砂 」

子どもが日常的にふれる自然物“砂”。同じ砂でも、その日の状態で、遊び方は千差万別です。「ケーキできるかな?」「こっちの黒い砂ならできそうだよ!」私たちは、子どもの好奇心や創造性を湧かせる“砂”で、たくさん遊んでみようと考えました。



どんな料理もつくれちゃう♪

「できたー!」と嬉しそうな声。プリンを作ろうと、一所懸命に砂を詰めて、こぼさずに型が抜けた瞬間です。湿った“黒い砂”を探して集めて、思った通りのプリンができました。すぐに「食べてー」とスコップで保育者に差し出します。何度も作れるのも、“砂”が持つ魅力のひとつですね。

“じっけん”を始めます!

“白い砂”は、乾いた砂。ギュッと握っても手をから逃げてしまいます。「あれ?これを、すべり台でやったら...?」思いついたら実験です!誰もいないのを見計らって、すべり台に砂をパッと放します。シャーっとすべる砂に大興奮。実験は、大成功だったようです。



わぁ!それは面白そう!!

みんなで山作りの真っ最中。ひとりでも遊べますが、協力できるのも砂遊びの魅力ですね。「大きな山にしたいね」「登れるくらい大きくしちゃおうよ!」誰かの発想から遊びがどんどん膨らんでいきます。砂遊びは、子どもたちのコミュニケーションも育ててくれます。

砂場遊びは、保育園でもポピュラーな遊びです。身近な遊びの素材ですが、いろいろと変化を生み出す“自然”のひとつでした。

同じ砂でも、湿り具合で感触や性質が違います。すると遊び方も変わります。黒い・白いの色味、触れた時の温度感、掘るときや握るときの音など、子どもの五感を刺激します。砂の変化が「どうして?」「不思議!」と、子どもの感性をくすぐります。

ある日、保育者が砂を起こしてふかふかにしました。それを、足が沈むからとスコップで足元を固める子が現れたのです!子どもの観察や発想って、大人の想像を超えますね。

そんな、子どものセンスを伸ばす“砂”。今日は、どんな砂が待っているのかな?子どもたちと、たくさん触れて遊んでいきたいと思います。

